



宮農にきて20年。一番大変だったのは12年前の東日本大震災です。しかし、皆様の協力や支えで今の宮農があり、牛部があります。牛部の生徒達には共進会の文字の如く、「共に進む」ということを伝えたいです。(渥美先生)



小さい頃から生き物が好きで宮農の学校紹介で牛部を知り、「ここだ！」とピンときて入部を決めました。将来は動物園での仕事などに就きたいと思っているので、宮農では、授業や牛部で生き物のことを学んでいます。3年生が引退して人数が減ってしまったので絶対賛部員募集中です！(2年生、木村楓花さん)



実家が酪農家で将来は後継者として酪農家になることが夢です。牛が大好きで、飼養管理や最新の酪農について直接学べる牛部に入部しました。牛部にいる間に共進会でリーダーマンをやるのが今の目標です。(1年生、安達優希さん)



酪農に憧れや興味を抱き、実践をとおして酪農を学ぶ学生達は今、何に興味を持ち、どのような活躍をしているのか？
未来の酪農業界を担う期待の星を紹介！



コロナ禍で、ことごとく共進会が中止や延期になっていましたが、昨年の11月に初めての共進会でリーダーマンを務めさせてもらい、良い経験になりました。卒業後は実家の酪農を継ぐために進学して、さらに酪農についての知識を付けてきたいです。(3年生、長井鳳成さん)

概要
宮城県農業高等学校 牛部
部員 14名
繋ぎ牛舎(乳牛24頭、和牛10頭)
活動内容
東日本大震災から12年。校舎や牛舎は津波の被害により、損壊。5年前に牛舎の再建を果たし、現在はホルスタインと和牛を飼養する。震災を経験した指導者のもと、命を扱う大切さを学ぶ「牛部」で、部員達は日々の管理や共進会の準備を行なう。
担当教諭：池田 友利 先生、実習講師：渥美 勇人 先生

部員全員で協力して、共進会や和牛甲子園に向けて1頭の牛を育てあげる。部内で競争がない牛部だからこそできること。牛の管理だけでなく、人としても成長させてくれるのが牛部の魅力。

NO.3

宮城県農業高等学校



将来酪農とは直接関係しない職業を希望する生徒もいます。そういった生徒達には、宮農牛部で命の重さや食の大切さに関することを学んでもらい、自分達が大人になったとき、次の世代に「こんなにすごいことをやっていた」と胸を張って言えるようになってほしいです。(池田先生)



牛を育てていくなかで、牛とは言葉こそ通じなくても、何かで通じあえていることにやりがいを感じ、将来は畜産農家として地元の仙台牛が日本を代表する銘柄牛となるように飼育することが夢です。和牛甲子園など、高校生が活躍できる舞台を通じて、仙台牛をアピールしていきたいです。(1年生、星碧虎さん)



非農家出身で酪農は初めてでしたが、動物が好きなので牛部に入りました。右も左もわからず、できることは何でも挑戦しました。搾乳機器の扱いがとくに難しかったですが、今では完璧！牛と触れ合えるブラッシングをしている瞬間が一番幸せです。(3年生、佐藤史奈さん)



毎朝の搾乳の時間が好きです。冬の朝は寒くて暗いですが、むしろそれが「やっている感」があって幸せな瞬間です。将来は直接酪農の仕事に就くわけではなくIT関連の仕事に就きたいと考えてます。そして、今話題のスマート畜産に携わりたいです。(3年生、高城瑠菜さん)



学生牛部は今!